

66 仲順流り（口）

この仲順流りちゆんじゆんながというもの、仲順大主ちゆんじゆんうふすという。大主ですよ、仲順大主。主がですな、男の子三名もうけて、生まれておる。三名生まれておるが、この三人の子どもですな、これにいわば、物言いつけですよ、物言いつけ。

「親はもう年取つて何もならんから、食べ物もできんから、あなたの息子を捨ててですな、おれに乳を与えなさい。おっぱいを与えなさい」という意味ですな。

長男も次男もお断わりしたわけですね。お断わりして。三男がですな、こういうふうに歌っておった。

『親のまとも拝まれん、なちぐわーなじきてい抱かりゆん。なちぐわーやしていい。ちいあぎら。』
うちゅうて、するわけだ。おっぱいあげましよう、これを申し込んだわけだ。申し込んでからですな。

これを、この人がよ、このなちぐわーを、この孫をですな、どこにも捨てさせない。三本の松の生えてお

るところに三尺穴を掘つて、葬つて、やったですな。この妻がですよ、この夫を抱いて子どもを抱いて出掛ける、妻が。ここにおつても何もならん。雨傘を被つて、この自分の息子のところついで行く。

行くところですよ、夫は鍬を持って穴を掘つて、この一鍬打たせば子どもは面白く、二鍬打たせば、親に向かつて笑うて。三番目に、二回打たせば三尺で、二回に掘りたる穴の中、今度はここから宝が生まれてくるわけだ、宝が。黄金の宝箱をそこから掘り上げた。自分の子どもを宝と思つて。

字名城 伊敷義光